医療法人社団 悠翔会

YUSHOUKAI ANNUAL REPORT 2020

すべての人に
「安心できる生活」と
「納得できる人生」を。

たとえ治らない病気や障害があっても、

望む場所で最期まで暮らし続けられること。

医療法人社団悠翔会は「チーム在宅医療」の理想を追求し

超高齢化していく首都圏と、そこで暮らす人々を支えます。

医療法人社団悠翔会　理事長・診療部長
悠翔会在宅クリニック稲毛　院長

佐々木　淳

悠翔会在宅クリニック早稲田　院長

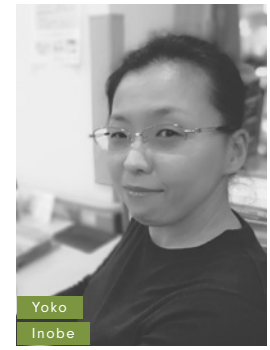
田鎖　志瑞

悠翔会在宅クリニック金町　院長

村林　亮

悠翔会在宅クリニック品川　院長

西　和男



悠翔会在宅クリニック川口　院長

伊野部　容子

悠翔会在宅クリニック渋谷　院長

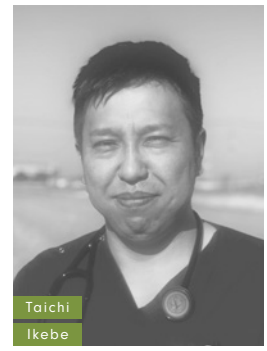
齋木　啓子

悠翔会くらしケアクリニック練馬　院長

星野　孝省

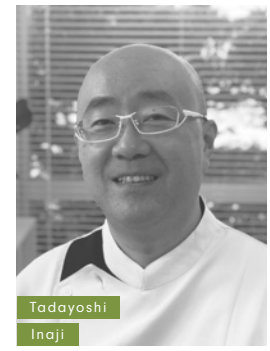
悠翔会在宅クリニック墨田　院長

鳥越　桂



悠翔会在宅クリニック春日部　院長

池邉　太一



悠翔会在宅クリニック船橋　院長

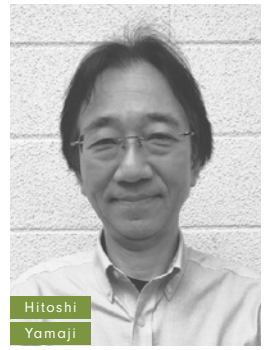
稲次　忠介

悠翔会在宅クリニック越谷 院長

岡田 大輔

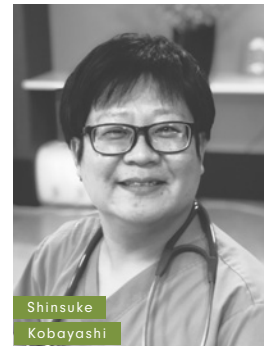
悠翔会在宅クリニック北千住 院長

高橋 徹



悠翔会在宅クリニック川崎 院長

山路 仁



悠翔会在宅クリニック柏 院長

小林 真介

悠翔会在宅クリニック新橋 院長

濱 義人

悠翔会在宅クリニック流山 院長
(開設準備中)

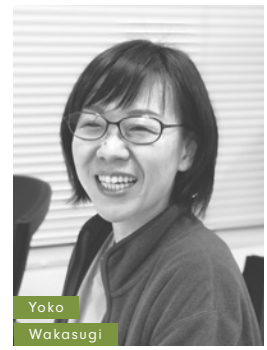
白石 貴久

医療法人社団悠翔会 精神科

中野 輝基

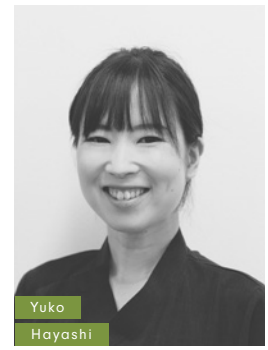
医療法人社団悠翔会 訪問歯科診療部部長

井上 剛



医療法人社団悠翔会 訪問歯科診療部

若杉 葉子



医療法人社団悠翔会 在宅栄養部

林 裕子

在宅医療を通じて、
超高齢社会を豊かな未来に。

最期まで自宅で過ごしたいと願う全ての人の想いに応えるために。
2006年、わたしたちは東京都心・千代田区に最初の在宅医療クリニックを開設しました。

在宅総合診療、確実な24時間対応、そして患者さんの人生観を大切にする医療。
地域の方々にこの３つの価値を約束し、それを忠実に提供してきました。
現在、志を同じくする76名の医師を含む277人の仲間たちが、首都圏の15の診療拠点から、常時5000名を超える患者さんの生活を24時間体制でサポートしています。
精神科や皮膚科など専門医による訪問診療、訪問リハビリ、訪問歯科診療、訪問栄養指導なども順次スタートし、在宅でのあらゆる医療ニーズに応えるべく「チーム力」を磨いてきました。

わたしたちを動かすもの。
それはよりよい未来への強い願いです。

国民の40%が高齢者、7人に1人が認知症とともに生きる時代がそこまで来ています。
急性期病院を中心とした従来型の医療システム、そして世代間支援を前提とした社会保障制度は持続可能性が懸念されるようになってきました。
増え続ける高齢者を支える介護のリソースも絶対的に不足し、支えられる高齢者の側も、自らの意思で人生を選択できる人は残念ながら少数です。

本来、「長生き」はわたしたちの共通の願いだったはずです。
超高齢化は、多くの人がそれを実現できるようになったという喜ばしい成果であるはずです。そして、これを豊かなものにする責任が私たちにはあります。

加えて、今年は新型コロナウイルスという私たちにとってこれまでにない大きな未知との出会いがありました。
感染拡大を防ぐ努力と、生活の質を守る努力。この２つのバランスの中で、私たちは「いのち」とは何かという本質的な問いに向き合うとともに、医療やケアの意味を自ら再定義することになりました。

「人生の豊かさ」の本質を追及する。加齢や病気に伴い心身の機能が低下しても、最期の瞬間まで安心・納得して生き切れるコミュニティをつくる。そして、長生きを心から喜べる社会をつくりたい。
私たちは、変化し続ける社会のニーズに柔軟に対応しながら、高品質な在宅医療の提供を通じて、22世紀型の新しい社会に最適化した仕組みづくりに、積極的に取り組みます。

STRUCTURE

診療体制

訪問診療圏域を都内：平均半径3キロ、郊外：平均半径6キロに設定し、よりフットワークの軽い地域に密着した在宅医療を提供。また、各診療拠点にさまざまな医療専門職を配置、いかなる患者さんも迅速に受け入れられる強力かつ安定的な診療体制の構築を目指しています。2020年は急速に高齢化の進む春日部・船橋に新クリニックを開設するとともに、稲毛では社会福祉法人生活クラブよりクリニックを承継しました。既存の診療拠点も成長が続いており、これに合わせて診療力を強化、診療系職員は合計152名（31名増）となりました。なお、診療支援部門は業務の合理化により3名減、管理部門は将来の事業拡大及び業態変化に備えて大幅増、これらを含めグループ職員数は277名となり、前年より57名増加しました。

診療拠点
15施設[+3]

医師・歯科医師
65名[+9]

訪問診療車両	46台 [+7]
看護師	55名[+14]
医療ソーシャルワーカー	17名 [+3]
その他の医療職	15名 [+5]
診療部門合計	152名[+31]
診療支援部門合計	64名 [-3]
管理部門	56名[+28]
システム開発部門	5名 [+1]

地域連携体制

在宅医療は地域包括ケアシステムの１つ、地域のパートナーの方々との協働がなければ機能しません。実際、悠翔会の初診患者さんの99%は連携先からのご紹介によるもの。これからも地域の一員としての自覚を持ち、しっかりと責任と使命を果たしていきたいと思います。

連携・協力病院
64施設[+2]

当直連携クリニック
19施設[+6]

居宅系事業所	903事業所
施設系事業所	127事業所
訪問看護ステーション	489事業所
調剤薬局	445事業所

PROCESS

診療実績

2019～2020年は、新たに2,292名に対する訪問診療を開始、同期間中に1,919名の訪問診療が終了、この1年間の在宅管理患者数は373名（約10.1%）増となりました。成長ペースは加速しています。なお、この1年間は大型高齢者施設の診療受け入れ等はなく、主に居宅の患者さんを中心に患者数が増加しました。また、特別養護老人ホームの配置医師業務を積極的に受け入れたことなどから、総患者数は5,000名を超えました。
休日夜間バックアップのための診診連携のネットワークも拡充、連携クリニックの増加および各連携クリニックの患者数の増加により、連携患者数は2,000名を超えました。

訪問診療件数

88,915件[+5,600件]

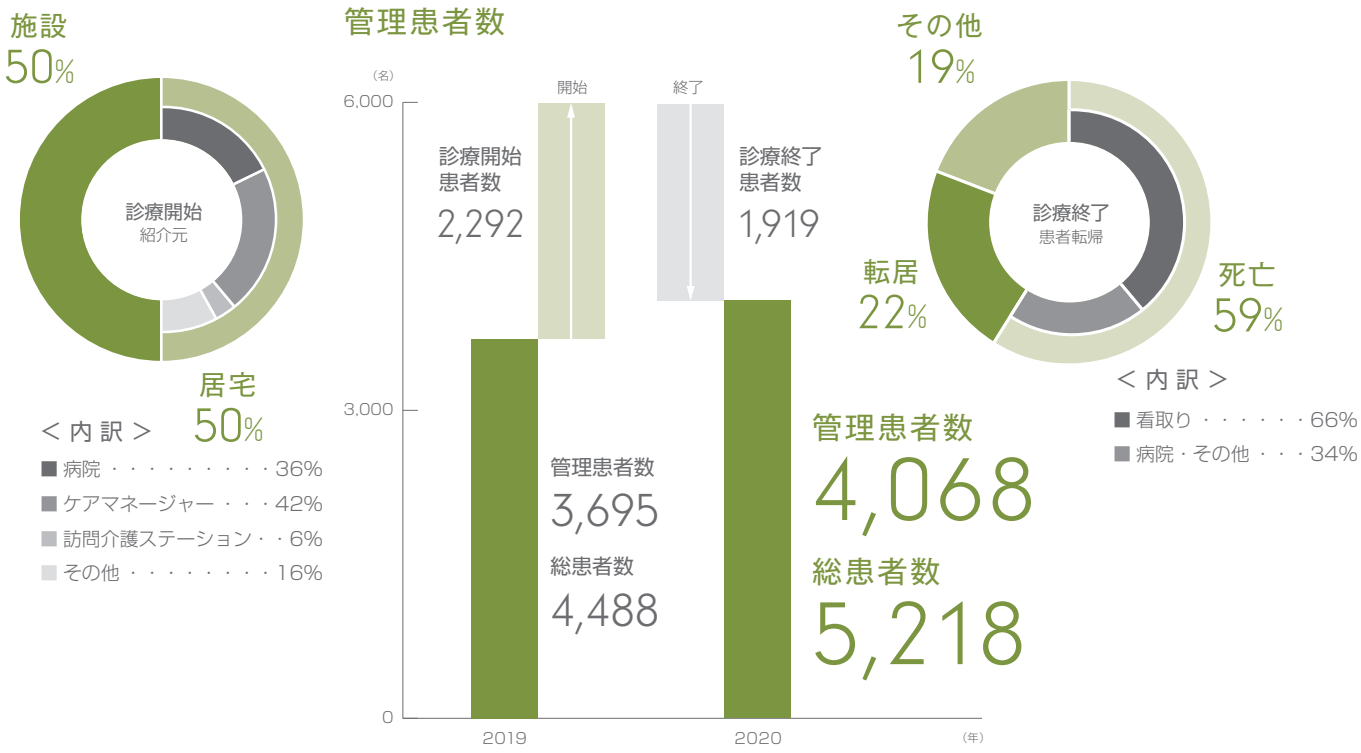
※定期（予定）訪問診療のみ

緊急往診件数 ……6,651件 [+621件]

※定期訪問以外の往診（往診と緊急往診の合計）

電話再診件数 ……14,351件 [+1,640件]

連携患者数 ……2,071名 [+676名]



運営実績

システムの改善およびタスクシフト・タスクシェアの推進で、ライフワークバランスの確保に努めました。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、診療部門の時差出勤・直行直帰、管理部門の在宅勤務を拡大しました。

平均残業時間

診療部門 …… 平均18.06時間／月

非診療部門 …… 平均22.24時間／月

育休・産休取得率 ……100%

OUTCOME

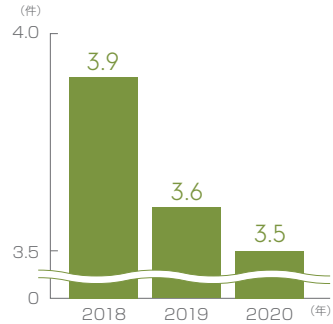
診療成績

在宅患者さんとご家族にとって「安心できる生活」「納得できる人生」とは何でしょうか？
それは「予期せぬ体調変化を恐れることなく、望む場所で最期まで穏やかに生活が継続できること」だと考えます。なるべく急変せず、なるべく入院せず、できれば自宅で最期まで過ごせる、結果として自宅で看取られる。そんな療養生活の支援こそがわたしたちの社会的責任です。わたしたちは、自らの診療成績（Quality Indicator）として、「急変を減らす」、「入院を減らす」、「自宅（施設）で最期まで過ごせる」の３つを設定し、継続的な診療の質の改善を目指しています。

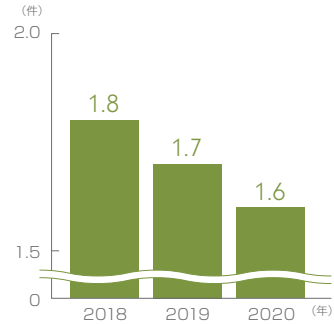
01 急変を減らす

老衰や治らない病気の進行を止めることはできません。しかし、今後の体調変化や症状の出現を予測し、それに備えることは可能です。在宅医療における医学管理とは、日々の健康管理を通じて、急変のリスクを最小限に抑えるとともに、予期されるリスクに十分な備えをしておくこと。2020年は、患者さん1人あたりの急変（電話再診・緊急往診）の発生をさらに減らすことができました。

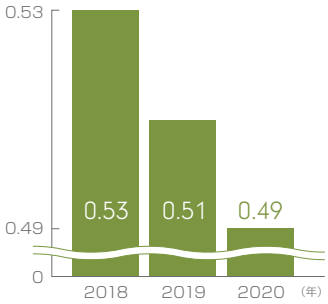
電話再診件数
※患者1人あたり年間平均



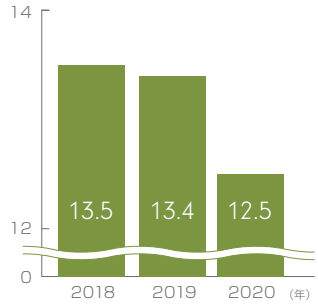
緊急往診件数
※患者1人あたり年間平均



入院回数
※患者1人あたり年間平均



入院日数
※患者1人あたり年間平均



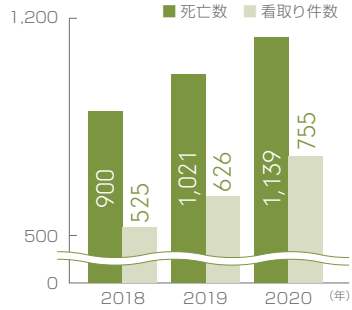
02 入院を減らす

入院治療の侵襲や入院による環境変化のストレスは、在宅患者の身体機能・認知機能を低下させるリスクもあります。予防的な医学管理を通じて、入院が必要な事態を最小限に抑えること、そして入院になったら1日も早く退院できるように支援すること。これは在宅医療の主たる使命の1つだと考えます。2020年は患者数の増加により総入院回数・日数は増加したものの、一人あたりでの入院依存度は大きく低下しました。

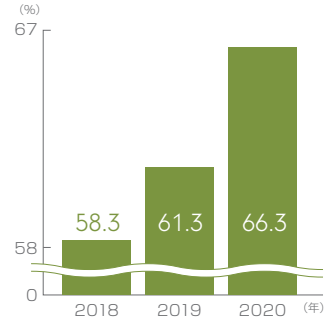
03 自宅（施設）で最期まで過ごせる

「看取る」とは、最期まで穏やかな生活を継続できるよう支援すること。ご本人・ご家族が変化していく状況と上手に向き合えるよう、地域や施設での多職種連携と包括的支援が必要になります。自宅での死亡診断は結果であって目的ではありません。看取り率を100%に近づけるのではなく、患者さんにとって最適な場所で最期まで過ごせる状況を作ることこそ重要であると考えます。なお、悠翔会は法人別看取り数の集計で、全国1位※となっています。

死亡数／看取り件数



在宅看取り率



※朝日新聞出版『さいごまで自宅で診てくれるいいお医者さん2020年版』

TOPICS

COVID-19に対応した新しい在宅医療の体制づくり

2019年に感染制御部門が稼働、これまでは季節性インフルエンザのアウトブレイクなどに対応してきましたが、2020年2月からは新型コロナウイルスの感染拡大防止が主たる活動となりました。在宅勤務・時差出勤などを可能とする就労規則の改定と環境整備、オンライン会議・情報共有システムの導入などの法人運営体制の強化に加え、患者・家族・施設等への情報発信を行いました。第一波では感染者ゼロ。第二波でも大きなクラスターは発生していません。また、日本医師会COVID-19有識者会議、日本在宅医療連合学会新型コロナ対応ワーキンググループ、新型コロナ感染拡大防止活動基金等でも積極的に活動、withコロナの時代に向けた新しい医療介護体制づくりにも積極的に関わっています。

船井財団・グレートカンパニーアワード「大賞」を受賞

船井総合研究所により他薦され、9,000を超えるノミネート企業の中から最優秀企業として選出されました。「グレートカンパニー」とは、社会的価値の高い「理念」のもと、その「企業らしさ」を感じさせる独特のビジネスモデルを磨き上げ、その結果、持続的成長を続ける会社、そして社員も顧客も誇りを持つような独特のカルチャーが形成されている企業と定義されています。当会は2018年の「特別賞」に続いて2度目の受賞となりました。

また「アジア健康長寿イノベーション賞」においても、テクノロジー・イノベーション部門で優秀事例に選出されました。これは日本政府によるアジア健康構想の一環として、東アジア・アセアン経済研究センターおよび日本国際交流センターが2020年に創設したものです。

超高齢社会に最適化した高齢者の救急対応の模索

今年、都内では初となるホスピスカーの運用が始まりました。これにより、医師がより迅速に患者宅に往診に赴くことができるようになりました。また、在宅高齢者の緊急入院のリスクを減らすための研究に取り組み、日本在宅救急医学会や日本救急医学会等で発信してきました。

首都圏では、基礎疾患を持つ脆弱な高齢者が地域に増えていく中、救急車の出動件数も増え続けています。一方で搬送される高齢者の約半数は中等症から軽症で、入院が必要な重症患者の割合は決して多くはありません。救急病院のみに依存する救急医療体制が果たして最適なのか、在宅医療の立場でやれることはないのか。2021年より新しい取り組みに着手する予定です。

医療法人社団 悠翔会

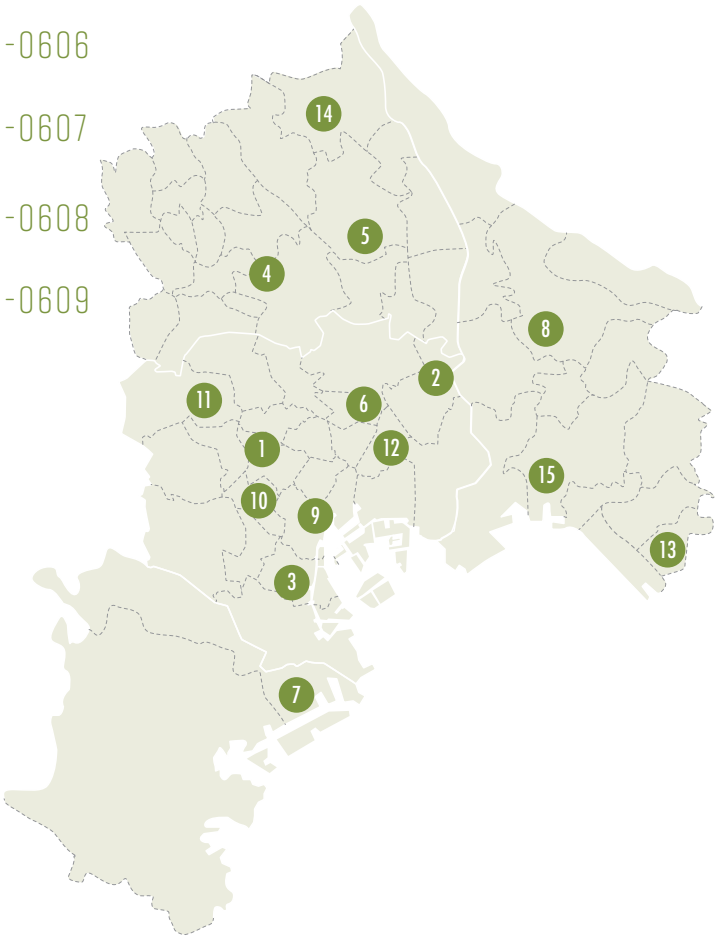
医療法人社団悠翔会　法人本部
〒105-0004 東京都港区新橋5-14-10 7F

代表
03-3289-0606

Fax
03-3289-0607

医療連携室
03-3289-0608

救急診療部
03-3289-0609



1. 悠翔会在宅クリニック早稲田
〒162-0804 東京都新宿区中里町29-3 7F
2. 悠翔会在宅クリニック金町
〒125-0042 東京都葛飾区金町5-24-18
3. 悠翔会在宅クリニック品川
〒140-0014 東京都品川区大井4-4-6 3F
4. 悠翔会在宅クリニック川口
〒333-0861 埼玉県川口市柳崎4-8-33
5. 悠翔会在宅クリニック越谷
〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷4-13-20 2F
6. 悠翔会在宅クリニック北千住
〒120-0032 東京都足立区千住柳町32-1
7. 悠翔会在宅クリニック川崎
〒210-0851 神奈川県川崎市川崎区浜町4-6-19
8. 悠翔会在宅クリニック柏
〒277-0843 千葉県柏市明原4-10-12
9. 悠翔会在宅クリニック新橋
〒105-0004 東京都港区新橋5-14-10 7F
10. 悠翔会在宅クリニック渋谷
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-43-2 2F
11. 悠翔会くらしケアクリニック練馬
〒176-0003 東京都練馬区羽沢1-22-11
12. 悠翔会在宅クリニック墨田
〒131-0042 東京都墨田区東墨田2-15-2
13. 悠翔会在宅クリニック稲毛
〒263-0051 千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
14. 悠翔会在宅クリニック春日部
〒344-0067 埼玉県春日部市中央1-51-12 2F
15. 悠翔会在宅クリニック船橋
〒273-0005 千葉県船橋市本町4-40-8 1F

www.yushoukai.jp